

社長メッセージ

2023年8月1日（火）

■ 「エンジン／SUN Digital Transformation②」

皆様、おはようございます。

昨日の続きです。皆様は、1988年公開のアカデミー賞を受賞した映画『レインマン』をご覧になられたでしょうか？ダスティン・ホフマンが重いサヴァン症候群（知能指数自体は高いが、自分を上手く表現できず自分の感情をよく理解できていない症状）の兄を演じ、自由奔放で利己的な弟をトム・クルーズが演じた、兄弟愛を描いたヒューマンドラマです。印象に残っているシーンで、天才的記憶力を持つお兄さんの記憶力を利用して、弟が、カジノのポーカーで大儲けするシーンがあります。今回、SUN Digital Transformation で共に仕事をする方々は、あの『レインマン』のダスティン・ホフマンが演じたお兄さんだとイメージして頂ければ、わかりやすいかと思います。

皆様は、障がい者の方が、働けるということをご存知だったでしょうか？

実は、大変恥ずかしながら、私は、障がい者の方が、働くことが出来るとは、全く想像出来ておらず、彼らが活躍していることを、全く知りませんでした。4年前の2019年8月に、人を大切にする経営学会「経営人財塾」にて、サンアクア TOTO 株式会社（福岡県北九州市、当時障がい者雇用率 95.5%）、株式会社障がい者つくし更生会（福岡県大野城市、当時障がい者雇用率 81.6%）、ラグーナ出版（鹿児島県鹿児島市、ほぼ全スタッフが精神障がい者の方々）を視察させて頂いた時に、衝撃を受けました。障がい者の方々で、事業が回っている、しかも、健常者の企業と比較しても精度が高いということに、本当に驚かされました。

簡単にその仕組みを説明すると、仕事の内容を細分化して、各人の得意な分野を担当してもらい、チームで対応するという、やり方の工夫で、障がい者の方々でも（身体障がい、精神障がいのいずれの方々でも）、仕事が出来て、仕事が完成するということを、初めて知りました。ショックでした。この「障がい者の方々には仕事が出来ない」という思い込みこそが、差別だったのだと大いに反省しました。ただ、とは言うものの、高度な IT 分野は難しいだろうな、とっていました。

ところがです。『こころとグループ』に所属している方々は、高度な IT 分野についても、手間取るはずの請求書・領収書の貼付作業やデータ入力作業、それらのチェック作業等々を、軽々とこなしてしまうのです。業務を細分化して、ご自分たちの得意分野の才能で対応して、チームとしてやり上げるのです。この才能の集まりでの仕事を目の当たりにしたのは、ある企業の請求書発行業務でした。それまで、その企業では、担当者が、数十か所の事業所から要請される紙ベースの請求書の発行手続きとデータ入力、入金管理作業等を、2週間もの時間をかけて対応していました。この作業を『こころとグループ』の方々は、請求書の分類作業、貼付作業、データ入力作業、チェック作業、郵送作業、入金管理作業等々、チームで効率よく分担して、完璧に対応して、2時間で納品

されました。当該企業の担当者は、この効率の悪かった作業から解放されたことで、泣いて喜んでおられました。

他にも、別の企業の依頼で、毎日毎日数十か所から本社に送られてくる営業マンの手書きの日報を、データ化してほしいという依頼に対して、これも効率よく入力してデータ化し、さらに、そのデータを分析して、AI にかけて、「こうしたほうが、営業効率があがるのではないか」という提案までされました。翌日から、その提案された内容で、各営業所に具体的な指示が出されました。そうすると、なんと売上と利益が、これまでと比べて上昇したとのことで、その企業の社長は大変に感謝されておりました。

現在、わが国で“発達障がい”と認定され、障がい者手帳を保有されている方は、約 400 万人います。現在、この数は増加傾向にあります。このうち実際に仕事をされている方は、たった約 5 万人しかいません。

別の案件では、プログラム・プロダクトの開発案件でしたが、2 週間の期限での開発依頼案件だったのですが、あるギフテッドの方が、たった 5 分でプログラムをつくり、10 分で検証して、30 分後には納品されていました。

唖然としました。私の理解不足というか、無知だったことが、とても恥ずかしくなりました。“発達障がい”というのは、本当に“障がい”だろうか？という疑問を持ちました。単なる“人付き合いが苦手なだけ”の個性なのではないかと思ひ、その考えは、日に日に強くなっています。『こころとグループ』大島社長は、“障がい者に光を当てる”との信念のもと、起業をされましたが、発達障がい者の方々を延べ 600 名雇用し、才能を科学的定量評価し、この評価結果を体系的にまとめた「こころとインサイト分析」を開発して、発達障がい者の方々の才能開花を実現させました。この各個人の才能を発掘することが出来る、ここが凄いところです。大島社長によると、“発達障がい”の方々は、大きく別けると、2つの才能に分類出来るそうです。1つは、データ等を見た瞬間に閃き、プログラムを開発出来るようになるような才能。もう1つは、ずっと集中して、その目の前の仕事をやり続けることが出来る才能。この才能を保有する方々を、得意分野に振り分けて、チームで仕事を完成出来るようにする、とのことでした。

SUN Digital Transformation 株式会社の“エンジン”の凄さを、まだまだ少ししかお伝え出来ておりませんが、ようやく NDA（秘密保持契約書）を締結して、各社のヒアリングが開始されました。当社が受注した案件での事例も、皆様にお伝えできればと考えております。

代表取締役社長 前田 健 晴